

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：商業振興費

事業名 【新】商店街高齢者等向け事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 商業・金融課 商業振興係 電話番号：058-272-1111(内3646)

E-mail：c11363@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,000 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

・商店街は、近年の中心市街地を取り巻く環境の激変(都市の郊外化、高齢化・人口減少、公共交通機能の衰退、施設の老朽化等)や後継者不足、担い手・人材不足、商店街自体がその環境の激変に対応できなかったことなどもあり、依然衰退している状況である。地域の商店数が減少した結果、近隣の高齢者や子育て世帯等の買物に出かけることが難しい世帯の日々の買物場所が無くなりつつある。

・商店街の活性化には、早急に解決策を見出すことは難しく、その処方箋は各地域により異なることもあり、商店街が明確な方向性(ビジョン)を作成し、関係機関と連携しながら、中長期的に取り組むことが必要である。商店街がにぎわいを取り戻すことは、商業の振興ばかりでなく、少子高齢化や防犯・防災等に対応したまちづくりを進めていく上でも、非常に重要な課題である。

(2) 事業内容

・商店街が買い物に困難になっている者を対象にして行う事業に支援する。

【補助対象事業】

高齢者等向け事業支援事業

出張商店街、商店街買い物ツアー等買物が困難な者を対象にして行う事業

【対象事業者】

商店街組合、商工会議所、商工会、まちづくり会社等

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・補助率 補助対象経費の1/3以内
- ・補助限度額 上限：1,000千円
ただし、市町村から交付を受けた補助額を超えないものとする。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,000	商店街高齢者等向け事業費補助金
合計	5,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略
3 地域にあふれる魅力と活力づくり
- (2) 次世代を見据えた産業の振興
- ③ 地場産業の活力の強化

(2) 国・他県の状況

千葉県：地域商業活性化事業（商店街が行う買い物弱者支援事業（宅配事業、移動販売等）について補助）

(3) 後年度の財政負担

商店街が買い物弱者支援を行うことは、商業の振興ばかりでなく、まちづくりを進めていく上でも、非常に重要な課題であるため、市町村及び県商店街振興組合連合会などの関係団体等と密接に連携し、引き続き、商店街活性化に向けた支援を実施していく。

(4) 事業主体及びその妥当性

商店街の活性化を目的としていることから、商店街地域の団体（商店街組合、まちづくり会社など）を、補助事業者とする。

県単独補助金事業評価調書

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	商店街高齢者等向け事業費補助金
補助事業者（団体）	商店街組合、商工会議所、商工会等 (理由) 地域住民の生活を支える商店街の活動維持を目的としているため。
補助事業の概要	(目的) 買い物弱者の買物機会の提供、商店街の認知向上 (内容) 出張商店街、商店街買い物ツアー他
補助率・補助単価等	定率 (内容) 補助対象経費の1/3 (理由) 市町村から同額以上の支援を条件とするため。
補助効果	買い物弱者の買物機会の確保、商店街の誘客数増加
終期の設定	終期 令和7年度 (理由) 予算要求上、令和7年度を終期と定めた。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>買い物弱者の買物機会増</p> <p>商店街来訪者数増</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R4)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
総店舗数	4,641	4773	—	4,525	4,346	

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。 指標① 目標： <u>40件</u> 実績： <u>40件</u> 達成率： <u>100</u> %
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標： <u> </u> 実績： <u> </u> 達成率： <u> </u> %
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標： <u> </u> 実績： <u> </u> 達成率： <u> </u> %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 補助金に頼らず、自立した事業を継続できる体制が必要だが、商店街を利用する住民の減少が店舗の減少につながっており、地域を支える活動の維持が困難になりつつある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 商店街及び県商店街振興組合等のニーズや要望等を確認しながら、県が支援すべき内容について、必要の都度、事業の追加・見直しを行いながら、継続的な支援を実施する。
--